

JIANax (ジアナックス:次亜塩素酸水)ご利用についてのご案内

中島産業株式会社

【☆ ウィルスへの効果(不活化)に関して ウィルスとは何なのか?】

ウィルスとは有機物(主にタンパク質)から出来ています。ジアナックス(次亜塩素酸水)はこの有機物に触れる事で瞬時にウィルスを不活化させる効果があります。それは人の体内にウィルスや細菌が侵入した時に、人の好中球において作られる成分 HOCL 次亜塩素酸と同じ成分です。HOCL 次亜塩素酸は人の体内に侵入してきた細菌ウィルスの細胞膜を障害することで菌・ウィルスの増殖を防御します。(*)また、HOCL 次亜塩素酸の特製として40℃近い温度に達するとその効果は倍増します。人が風邪を引いた時など熱が出るのはその為です。(*参照資料:H.Sies 著書「活性酸素と疾患(分子論的背景と生物の防衛戦略) 井上正康 監訳 学会出版センター」

【1. 付着菌対策】

JIANax 500mLスプレーボトルタイプは、出荷時有効塩素濃度 100ppm です。この濃度は、手指にも安心してご使用いただける試験データをもとに最大の効果を得ることができる濃度となっています。

付着菌はテーブルやトイレ便座等に付いた脂質などに付着しさらに増殖していきます。今回の新型コロナウイルスも付着菌からの感染率が60%以上ですので、手指にふれる可能性のある部分の除菌作業が大切です。

*ご参考案内として

弊社では付着菌お掃除対策として、弊社 AQUAnax(強アルカリ電解水)も並行しておすすめしております。なぜなら AQUAnax は、たんぱく質や油脂溶解能力に優れているため日常の汚れも取り除きながら除菌ができるからです。また成分は100%水を電気分解して生成されたものですので、二度拭きがいりません。強アルカリですので手指の除菌使用には不向きですが、薬品の強アルカリ(例.ハイターなど)とはちがい手についても特に問題はありません。また口に入る野菜や果物の洗浄除菌には最適です。

【2. 浮遊菌対策】

JIANax の空中噴霧に関して弊社では、安全性に関して次亜塩素酸水噴霧検査結果を確認しております。また、業務利用として介護施設や医療機関、犬のブリーダー様など、10年以上の使用実績もあります。噴霧利用における弊社推奨塩素濃度は20ppm~40ppmとしています。(弊社ジアナックス4ℓ、20ℓ製品は生成時400ppmにて出荷しております。噴霧使用希釈率は10倍~20倍になります)

*噴霧利用におけるご注意事項(ホワイトダスト現象について):超音波噴霧器で噴霧した時に、テレビや電気器具に白い粉状のものが付着することがあります。これは水道水で希釈使用した時に、水道水に含まれるミネラル分(カルシウム、マグネシウム等)が乾燥して付着するものになります。(ミネラル分を含まない純水を使用すればこのようなホワイトダスト現象ケースは改善されます。一般ご家庭でのご利用状況において純水を使用することは難しいと思われませんがご念頭においていただければ幸いです。)弊社推奨の次亜塩素酸水専用噴霧器における水道水そのものの使用に問題はございません。

【3. JIA-nax（ジアナックス：次亜塩素酸水）の有効性をどうやって確認するのか？】

菌やウイルスは目に見えるものではないため効果がでていないか疑問に思うのも当然です。

3-1. 体感できる確認方法としては「臭い」によるものです。

次亜塩素酸水はカビ、ペットのトイレ臭、ゴミ箱の臭などに即効性が期待できます。臭いの元を断つことはそこに発生している菌類を除菌している効果でもあります。

3-2. 塩素試験紙による有効塩素濃度の確認

次亜塩素酸分子量が除菌力の指標ともいえます。

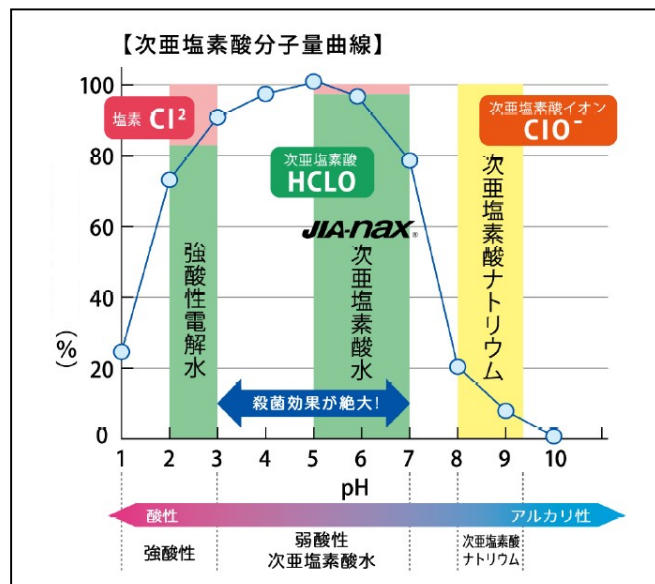
弱酸性ジアナックス(pH5~6.5)は、アルカリ性である次亜塩素酸ナトリウムに比べて約 8 倍の次亜塩素酸分子量を有します。

次亜塩素酸は弱酸性の領域において最も増えることに着目してジアナックスは製造されています。つまり、アルカリ性である次亜塩素酸ナトリウムと比較して約 8 倍の除菌力、80 倍の除菌スピードをもつことになるのです。

この有効性を確認するために、“塩素試験紙”による確認をおすすめします。また、塩素試験紙だけでは不安という方は pH 試験紙も併用されるとさらに確信を得る事ができます。

*右下記載グラフは弊社ジアナックスご案内資料に“次亜塩素酸(HCLO)分子量<曲線の内側>”に関してご紹介している内容です。

*塩素試験紙は弊社にて取り扱っております。



*別途にはなりますが参考資料もご案内いたします。

1.厚生労働省下部団体資料(PDF)

2.社外秘データ(⇒必要であれば取り扱いご注意の上ご提示は可能ですのでお声がけください)

最後になりますが、ご参考として他液剤とのちがいをまとめさせていただきました。

<アルコール消毒液・ジア塩素酸ナトリウムとの比較>

		次亜塩素酸水	アルコール (エタノール)	ジア塩素酸ナトリウム
効果	一般細菌	効果あり ○	効果あり ○	効果あり ○
	細菌芽胞	効果あり ○	効果がない ×	高濃度でないと効果なし ×
	カビ	カビの黒ずみはとれない △	カビの黒ずみはとれない △	効果あり ○
	ウイルス	効果あり ○	エンベロープ無ウイルスにほぼ効果がない(ノロウイルスなど効果なし) △	高濃度でないと効果が期待できない。△
使いやすさ	効果保持力	有機物(菌・ウイルス)に触れるとその役目を果たし失活 ○	濡れた部分には効果なし△	取扱に特に注意 △
	刺激、臭い	100ppm 以下問題なし ○	アレルギー 手荒れ △	アルカリ性 刺激アリ ×
	残留性	100ppm 以下問題なし ○	そのまま残留する △	高濃度残留性注意 ×
	廃水処理	100ppm 以下問題なし ○	そのまま廃棄できない ×	そのまま廃棄できない ×
	濃度有効性	塩素試験紙などで確認 ○	製品の濃度確認難しい ×	試薬、検査機器にて確認○
安全性	原料	製造原料は食品添加物使用	エタノール	次亜塩素酸ナトリウム
	トリハロメタン	次亜塩素酸(pH5~6.5)領域では生成しない	問題なし	クロロホルム等トリハロメタン発生
	危険性	問題なし	大量使用には危険物取扱資格が必要	大量使用には危険物取扱資格が必要